【３】　授業改善

１ 単元計画の作成手順

単元計画は，年間計画に配列された一つ一つの単元（学習内容）を授業としてどのように展開していくか見通しを立てたものである。「運動の特性」，「実態」，「学習のねらい」，「学習過程（道すじ）」，「学習のそれぞれの段階に応じた具体的な学習活動と指導（支援）活動」を明確に示すことで，体育学習（指導）における基本構想・基本計画を共有することができ，教師側と学ぶ側の目指す方向を一致させることが可能となる。授業を充実させるためには，児童生徒が主体的な学習のできる単元計画の作成が必要不可欠である。以下は，運動の特性を重視した単元計画の作成手順（例）である。

1　単元名

単元名

運動の特性を明らかにする

運動の特性

2　単元について

（１）一般的な特性

・機能的特性，効果的特性，構造的特性の３つの特性のうち児童生徒から見た運動の**機能的特性**（運動の楽しさや喜び）を重視する。
・運動の楽しさや阻害要因等を児童生徒の立場に立って捉える。
※詳しくは，２９～３３ページ参照。

（２）児童生徒から見た特性

実態を明らかにする

（３）児童生徒の実態

○運動の楽しさや喜びの体験
　→興味・関心・好き嫌い・欲求・意欲
○楽しさや喜びを求める学習経験
　→めあてのもち方，運動の工夫
○運動技能の習得状況
　→現在の技能のレベル

・日頃の授業から実態を把握するだけでなく，事前アンケートや事前評価等を参考にする。
・調査結果：図や表などで表示・添付するとよい。

学習のねらいを明確に示す

学習のねらい
（単元のねらい）

【学習指導要領の内容】

①知識及び技能
②思考力，判断力，表現力等
③学びに向かう力，人間性等

（４）教師の指導観

○教師の思いや願いを具体的に示す。
○阻害要因を解消するための方法や声かけ，学習カードの工夫，ルールや場の工夫等，具体的な内容を細かに盛り込む。
○児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明らかにする。

・「ねらい」と「めあて」を混同しない。
※詳しくは，３４ページ参照。

3　単元目標

学習過程を工夫する

学習過程
（学習の道すじ）

【学習過程・学習指導の工夫】

○運動の楽しさや喜び（機能的特性）を味わわせることを重視する。
○運動が苦手な児童生徒，運動に意欲的でない児童生徒への手立て・配慮を工夫する。
○ICT を積極的に活用する。
　※あくまでも，気付きや技能習得を補助するための手段であるので，ICT を使うことが目的にならないように注意する。

4　評価規準

5　指導と評価の計画

学習指導の工夫をする

学習指導の展開
学習活動と指導（支援）活動

6　本時の展開

２　運動の特性の明確化

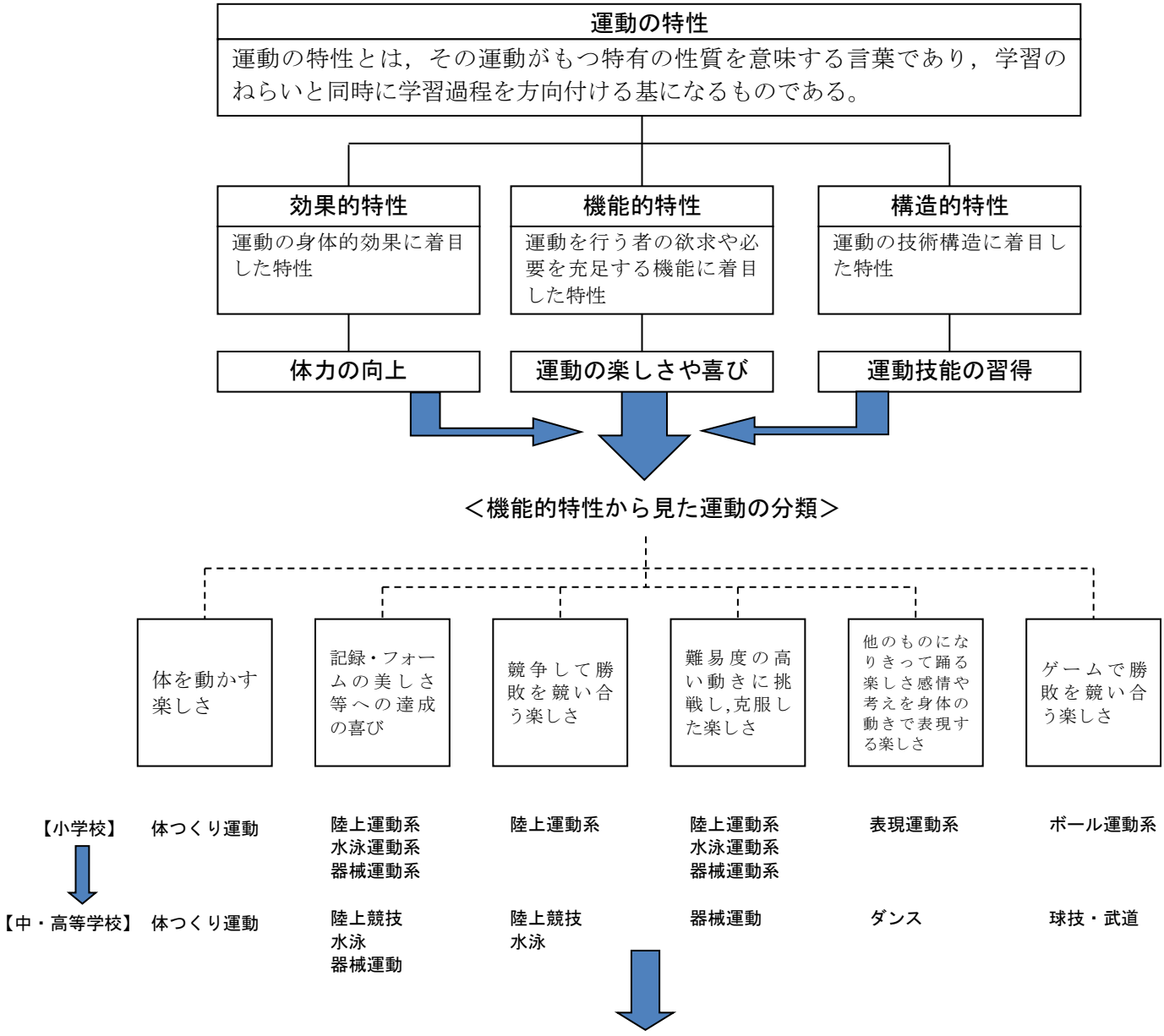
（１）一般的な特性

体育学習は，運動をめぐっての学習であるところに最大の特徴がある。したがって，その内容である運動の特性をどのように捉えるかによって，学習指導のねらいや方向性は異なってくる。

この運動の特性は，様々な視点から考えられるが，一般的には**「機能的特性」，「効果的特性」，「構造的特性」**の３つで捉えられており，体育では**「生涯にわたって心身の健康を保持増進し，豊かなスポーツライフを実現する」**観点から，この３つの特性のうち**「機能的特性」を重視**して学習指導を進める。

体育学習では運動を行う楽しさだけではなく，**「構造的特性」を踏まえた系統的な学習**により，各種の運動技能を高めて課題に挑戦したり，勝敗を競い合ったりすることから得られる運動の本質的な楽しさや喜び（その運動ならではの面白さ）を味わわせることも重要である。

また，**学習した結果としてより一層の体力の向上を図る**ことができるよう，児童生徒がその運動のもつ**「効果的特性」**に関わる学習についても十分に深められるよう，指導の在り方を工夫，改善する必要がある。



【児童生徒から見た運動の楽しさや喜び（機能的特性）を重視】

＜単元構想＞

一般的特性の例（小学校）	
体つくり運動	【機能的特性】・体つくり運動は，体ほぐしや動きづくりのための様々な運動（遊び）に取り組むことにより，仲間と交流しながら体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができる運動である。 【構造的特性】・体つくり運動は，体ほぐしの運動（遊び）と多様な動きをつくる運動（遊び），体の動き高める運動で構成され，様々な基本的な動きを身に付けたり，動きの質を高めたりする運動である。 【効果的特性】・体つくり運動は，自他の心と体の関係に気付いたり，基本的な体の動きを身に付けたり，体の動きを高めたりして，体力を高めることができる運動である。
器械運動系	【機能的特性】・器械・器具を使っての運動遊びは，様々な動きに挑戦し，それらができる楽しさに触れることができる運動遊びである。 ・器械運動は，様々な技に挑戦し，その技ができる楽しさや喜びに触れることのできる運動である。 【構造的特性】・器械や器具を使った運動遊びは，器械や器具を使って，回転，支持，逆さ姿勢，ぶら下がり，振動，手足での移動などの基本的な動きや技能で構成される運動である。 ・器械運動は，「マット運動」「鉄棒運動」「跳び箱運動」で構成され，回転したり，支持したり，逆位になったり，懸垂したりするなどの動きで構成され，基礎的な技をより高めたり，できそうな発展技に挑戦したりする運動である。 【効果的特性】・様々な動きを通して，運動感覚や巧緻性，調整力を身に付けることができる運動である。
陸上運動系	【機能的特性】・走・跳の運動遊びは，いろいろなレーンを走ったり，リズムよく跳んだりする楽しさに触れることができる運動遊びである。 ・走・跳の運動は，調子よく走ったり，バトンの受渡しをしたり，小型ハードルを走り越えたりする楽しさや喜びに触れることのできる運動である。 ・陸上運動は，一定の距離を全力で走ったり，バトンの受渡しをしたり，リズミカルにハードルを走り越えたり，リズミカルな助走から踏み切って跳んだりして，自己の記録に挑戦したり，相手と競走（争）したりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。 【構造的特性】・走・跳の運動遊びは，いろいろな方向へ走ったり，低い障害物を走り越えたり，前方や上方に跳んだり，連続して跳んだりするなどの基本的な動きで構成される運動である。 ・走・跳の運動(陸上運動)は，体全体を大きく，素早く，力強く動かし，体を巧みに操作しながら調子よく走ったり，跳んだりする動きで構成される運動である。 【効果的特性】・体を巧みに操作したり，体の力を最大限に出したりすることで，敏捷性や筋力，巧緻性を高めることができる運動である。 ・生涯を通じて，基礎的な運動能力や体力の維持・向上に役立てることができる運動である。
水泳運動系	【機能的特性】・水遊びは，水につかって歩いたり走ったり，水にもぐったり浮いたりする楽しさに触れることができる運動遊びである。 ・中学年の水泳運動は，水に浮いて進んだり呼吸したり，様々な方法で水にもぐったり浮いたりする楽しさや喜びに触れることができる運動である。 ・高学年の水泳運動は，続けて長く泳いだり，泳ぐ距離や浮いている時間を伸ばしたり，記録を達成したりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。 【構造的特性】・水遊びは，水の中を移動すること，もぐる・浮くことなどの基本的な動きで構成される運動である。 ・水泳運動は，背浮きや浮き沈みをしながら安定した呼吸の方法を伴って浮いたり，手や足の動きに呼吸を合わせながら泳いだりする運動で構成される運動である。 【効果的特性】・水の抵抗を受けて行う全身運動であり，筋力，持久力，柔軟性などの調和的な発達が期待できる運動である。 ・水を媒介として重心の不安定な状態で運動を行うため，バランスなどの調整力を高めることができる運動である。

	一般的特性の例（中学校・高等学校）
体つくり運動	【機能的特性】・自他の心と体に向き合って，運動の仕方を工夫することにより，体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができる運動である。 【構造的特性】・体つくり運動は，体ほぐしの運動と体の動きを高める運動及び実生活に生かす運動の計画で構成され，心と体をほぐしたり，体の動きを高める方法や目的に適した運動の計画を立て取り組む方法（３学年）を学んだりする運動である。 【効果的特性】・日常生活における健康の保持増進，体力の向上についての効果的な実践力を身に付けることができる運動である。
器械運動	【機能的特性】・多くの「技」があり，これらの技に挑戦し，できる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。 ・今できる技をより美しく，雄大にできるようになったり，できそうな新しい技に挑戦したり，組み合わせて表現したりするところに楽しさがある運動である。 【構造的特性】・器械運動は，器械，器具を用いて回転，跳躍，支持，懸垂，バランスなどの運動を行い，いろいろな技に挑戦し，できるようにする達成型からなる運動である。 ・安全に運動を行うための生徒相互の補助や協力を必要とする運動である。 【効果的特性】・身体支配力を最高度にしかも効果的に身に付けることができる運動である。 ・種目や技の動きに関連して，筋力や柔軟性，平衡性などが高められる運動である。
陸上競技	【機能的特性】・陸上競技は，走・跳・投の基本的運動によって，相手と競争したり，記録に挑戦したりするところに，楽しさや喜びがある運動である。 【構造的特性】・自己の体力や意志を使って能力を最大限に発揮することができる。また，記録の計測によって，自己の技能の進歩を確かめながら，自らの課題をもって学習することができる運動である。 【効果的特性】・技能の練習や競技を通して，基礎的な体力を高め，強い意志と決断力などを身に付けることができる運動である。 ・基礎的運動要素をもっており，体力を全体的に高めることができる。また，生涯を通じて，基礎的な運動能力や体力の維持・向上に役立てることができる運動である。
水泳	【機能的特性】・クロール，平泳ぎ，背泳ぎ，バタフライなどの泳法を身に付け，続けて長く泳いだり，速く泳いだり，競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。 【構造的特性】・水の物理的特性である浮力，抵抗，水圧などの影響を受けながら，浮く，呼吸をする，進むというそれぞれの技術の組合せによって成立している運動である。 【効果的特性】・水の抵抗を受けて行う全身運動であり，各泳法に関連して瞬発力，全身持久力などが高められる運動である。

	一般的特性の例（小学校）
ボール運動系	【機能的特性】・低学年のゲームは，個人対個人で競い合ったり，集団対集団で競い合ったりする楽しさに触れることができる運動遊びである。 ・中学年のゲームは，規則を工夫したり作戦を選んだり，集団対集団で友達と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びに触れることができる運動である。 ・高学年のボール運動は，ルールや作戦を工夫したり，集団対集団の攻防によって仲間と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。 ＜ゴール型共通＞・コート内の攻守が入り交じり，ボール操作とボールを持たない動きによって，得点を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる運動である。 ＜ネット型共通＞・コート上でネットを挟んで相対し，ボール操作とボールを持たない動きによって相手コートにボールを返球し，得点を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる運動である。 ＜ベースボール型共通＞・ボールを打つ攻撃や，捕球したり送球したりする守備などのボール操作と，チームとしての守備の隊形をとったり走塁をしたりするボールを持たないときの動きによって，攻守交替を繰り返し行い，得点を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる運動である。 【構造的特性】 ＜ゴール型共通＞・ドリブルやパス，シュートなどのボール操作と，空間に走り込む，味方をサポートするなどのボール操作に至るための動きから構成される運動である。 ＜ネット型共通＞・相手コートに相対し，サービス，パス，返球のボール操作と，ボールの落下点やボール操作がしやすい空間に走り込む動きから構成される運動である。 ＜ベースボール型共通＞・送球，捕球，打球といったボール操作，捕球の位置に移動する守備，目的の場所に走りこむ走塁からなる動きから構成される運動である。 【効果的特性】 ＜ゴール型共通＞・攻守が入り交じって，時には身体接触を伴いながらゲームを展開するので，ボールをコントロールすることはもちろん，相手や味方の動きを把握し，それらに対応した素早い身のこなしが必要となるため，巧緻性，敏捷性，スピード，全身持久力を高めることができる運動である。 ＜ネット型共通＞・相手の打球に応じた動きが必要とされるため，敏捷性や巧緻性を高めることができる運動である。 ＜ベースボール型共通＞・練習や作戦を工夫することで，集団意識を高めることができる運動である。 ・身体やボール，用具を操作して攻守を展開する動きを通して，瞬発力，敏捷性，巧緻性を高めることができる運動である。
表現運動系	【機能的特性】・表現リズム遊びは，身近な題材の特徴を捉えてそのものになりきって全身の動きで表現したり，軽快なリズムの音楽に乗って踊ったりする楽しさに触れることのできる運動遊びであるとともに，友達と様々な動きを見付けて踊ったり，みんなで調子を合わせて踊ったりする楽しさに触れることのできる運動遊びである。 ・表現運動は，自己の心身を解き放して，イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ることが楽しい運動であり，互いの良さを生かし合って友達と交流して踊る楽しさや喜びに触れることのできる運動である。また，身近な動物や乗り物などの題材の特徴を捉え，そのものになりきって全身の動きで表現したり，軽快なリズムの音楽に乗って踊ったりする楽しさに触れることのできる運動である。 【構造的特性】・題材の特徴を捉え，表したい感じやイメージを強調するように，誇張したり変化を付けたりする動きから構成される運動である。 【効果的特性】・自分の感じたことを表現したり，リズムに乗って全身で踊ったりすることにより調整力や持久力を高めることができる運動である。 ・即興的な身体表現能力やリズムに乗って踊る能力，コミュニケーション能力を培うことができる運動である。

	一般的特性の例（中学校・高等学校）　※下線は中学校第３学年以降
球技	【機能的特性】 ＜ゴール型共通＞・ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し，シュートを放ち，一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うことに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。 ＜ネット型共通＞・コート上でネットをはさんで相対し，身体や用具を操作してボールを空いている場所に返球し，一定の得点に早く到達することを競い合うことが楽しい運動である。 ＜ベースボール型共通＞・基本的なバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交替し，一定の回数内で相手チームより多くの得点を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。 【構造的特性】 ＜ゴール型共通＞・ドリブルやパス，シュートなどのボール操作や，空間に走り込むなどの個人的技能と，仲間と連携し合って攻防を行うなどの集団的技能から構成される運動である。 ・仲間と連携して空間を使ったり，作り出したりして攻防する運動である。 ＜ネット型共通＞・ネットをはさんで相対し，サービス，パス，返球などのボール操作と，打球直後に空いた場所を作らないように定位置に戻る動きで構成される運動である。 ・仲間と連携した動きによって空いている場所を攻撃したり，空いている場所を作り出して攻撃したり，その攻撃に対応して守ったりする運動である。 ＜ベースボール型共通＞・基本的なバット操作や走塁などの攻撃と，送球，捕球などのボール操作や定位置での守備などから構成される運動である。 ・連打を重ねるなどの攻撃や仲間と連携した守備で攻防する運動である。 【効果的特性】 ＜ゴール型共通＞・攻守が入り交じって，時には身体接触を伴いながらゲームを展開するので，ボールをコントロールすることはもちろん，相手や味方の動きを把握し，それらに対応した素早い身のこなしが必要となるため，巧緻性，敏捷性，スピード，全身持久力を高めることのできる運動である。 ＜ネット型共通＞・相手の打球に応じた動きが必要とされるため，巧緻性，敏捷性，スピード，筋持久力などを高めることができる運動である。 ＜ベースボール型共通＞・練習や作戦を工夫することで，集団意識を高めることができる。 ・身体やボール，用具を操作して攻守を展開する動きを通して，巧緻性，敏捷性，瞬発力，筋力などを高めることができる運動である。
ダンス	【機能的特性】・仲間とともに感じを込めて踊ったり，イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。 ・他との違いを個性として捉え，互いの良さを認め合うことができる運動である。 【構造的特性】・仲間とのコミュニケーションを重視する身体表現運動である。 ＜創作ﾀﾞﾝｽ＞　・多様なテーマから表したいイメージを捉え，動きに変化を付けて即興的に表現したり，変化のあるひとまとまりの表現をしたりする運動である。 ・表したいテーマにふさわしいイメージを捉え，動きに変化を付けて即興的に表現したり，個性を生かした簡単な作品にまとめたりする運動である。 ＜ﾌｫｰｸﾀﾞﾝｽ＞　・伝承されてきた日本の民謡や外国の踊りの特徴を捉え，音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊る運動である。 ＜現代的なﾘｽﾞﾑのﾀﾞﾝｽ＞・ロックやヒップホップなどの現代的なリズムの特徴を捉え，変化のある動きを組み合わせて（変化とまとまりをつけて），リズムに乗って体幹部を中心に全身で自由に弾んで踊る運動である。 【効果的特性】・リズミカルな全身運動であることから，動きに関連して柔軟性，平衡性，筋持久力などを高めることができる運動である。
武道	【機能的特性】・技を身に付けたり，身に付いた技を用いて相手と攻防したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。 ＜柔道＞　・相手と直接組み合って，基本動作や基本となる技，連絡技を用いて相手と攻防しながら，互いに「一本」を目指して勝敗を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。 ＜剣道＞　・竹刀を使って，基本動作や基本となる技を用いて，互いに「一本（有効打突）」を目指して，相手と攻防しながら勝敗を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。 ＜相撲＞　・素手で相手と直接組み合って，基本動作や基本となる技を用いて攻防をしながら，相手を崩して押したり，寄ったり，投げたりして勝敗を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

	【構造的特性】 ＜柔道＞　・相手の動き（の変化）に応じて行う姿勢と組み方，進退動作，崩しと体さばき，受け身などの基本動作と，投げ技，固め技の基本となる技（，連絡技）からなる運動である。 ＜剣道＞　・相手の動き（の変化）に応じて行う構えと体さばき，基本打突の仕方と受け方などの基本動作と，しかけ技，応じ技の基本となる技からなる運動である。 ＜相撲＞　・蹲踞姿勢，塵浄水，四股，腰割り，中腰の構え，運び足，仕切りからの立ち合い，受け身などの相手の動き（の変化）に応じた基本動作と，押し，寄り，投げ技などの基本となる技からなる運動である。 【効果的特性】 ＜柔道＞　・練習や試合を通して，瞬発力・筋持久力・巧緻性などを高めることができる運動である。 ・相手を尊重する態度や礼儀・ルールの遵守，公正な態度を養うなど，社会的に望ましい行動の仕方を身に付けることができる運動である。 ＜剣道＞　・作法，竹刀の取り扱い，防具を着装する時の紐の結び方など，伝統文化が身に付く運動である。 ・道具は自分の身を守るものであると同時に相手にけがをさせるものではないという考えを培い，安全性を確認することで相手を思いやる気持ちや尊重する気持ちが身に付く運動である。 ・主に瞬発力，敏捷性，巧緻性などを高めることができる運動である。 ＜相撲＞　・練習や試合を通して，瞬発力・巧緻性・柔軟性等を高めることができる運動である。 ・相手との格闘的な対応の中で旺盛な気力や冷静さを培うとともに，相手を尊重する態度や礼儀・ルールの遵守，公正な態度を養うなど，社会的に望ましい行動の仕方を身に付けることができる運動である。

（２）児童生徒から見た特性

学習に向かう姿勢は児童生徒により様々であり，運動の特性に対する求め方や触れ方も一様ではない。したがって，**全ての児童生徒が運動の楽しさや喜びを味わうため**には，どのような児童生徒も積極的に取り組めるように指導の**手立てを工夫**することが必要となる。

工夫には，運動を行う児童生徒自身がその運動の特性をどのように受け止め，どこに楽しさや喜びを感じるか，児童生徒にとってどのような学習が適切であるかなど，**児童生徒と運動との関係から特性を捉える**ことが大切である。

この「児童生徒から見た運動の特性」を明らかにすることが，児童生徒の運動に対する興味・関心の傾向や能力・適性等を明確にし，児童生徒の実態に応じた具体的な学習のねらいや指導の手立て，適切な学習集団の組織の仕方や学習活動の場を設定することにつながるのである。

（３）児童生徒の実態

児童生徒の実態については，様々な角度から捉えることができるが，教科の学習指導では，**目標との関連を重視し**，学習指導に生きるような捉え方をすることが大切である。したがって，**運動の楽しさや喜びを重視し**，**自発的・自主的に運動へ取組ませる**ためには，「運動の楽しさや喜びの体験」「楽しさや喜びを求める学習経験」「運動技能の習得状況」 について丁寧に把握する必要がある。

（４）教師の指導観

児童生徒の実態をふまえて，まず**「今ある児童生徒の期待や要求を理解し」**，それらを吸収するために**「現在の力量から児童生徒がどのような運動の楽しみ方ができるかを把握し」**，それによって**教師の指導観を定める**という構造で捉える。

どのような**「ねらい」**を提示すれば楽しく学習することができるか，どんな難易度のある**条件設定**であればどの児童生徒も意欲的に挑戦することができるか，どんなルールにすれば一人一人が楽しくゲームをすることができるかなどの**学習の「ねらい」や内容を明確化することが大切**である。

【コラム】

指導案には、単元の学習のねらいを達成するために，その時間に設定するものを「本時のねらい」や「学習課題」と表します。同様の目的であれば，市町村教育委員会や各研究会等によって大切にしている言葉を用いても構いません。

A 運動の楽しさや喜びの体験の差

①運動に対する興味・関心の状況

○運動すること自体の志向性（好き嫌い）　○仲間と共に活動すること自体の志向性
○運動の特性への志向性（種目）

②運動に対する欲求・意欲の状況

○その運動に対しての意欲　○その運動に対する注目，注意
○その運動に対しての期待，求めるもの

B 運動の楽しさや喜びを求める学習経験の差

①自分の力にあっためあてを正しくもてるかどうかの状況

○先生の指導があればできる。
○仲間の協力があればできる。
○学習資料等があればそれを使って自分でできる。
○学習資料等を活用し，発展させてできる。

②めあてを達成するための運動の工夫や練習ができるかどうかの状況

○具体的には①に同様

③協力や教え合いがオープンにできるかどうかの状況

○具体的には①に同様

C 技能の習得状況や技能のレベル

①現在身に付けている技能や知識の状況

②技術構造から見て，特性への触れ方はどのようにできるのかの状況（球技の例）

○易しいルールと易しい運動の場の条件であればゲームを楽しむことができる。
○攻防に作戦を駆使してゲームを楽しむことができる。
○技能を伸ばすことによってゲームを楽しむことができる。

◇「ねらい」と「めあて」

単元計画を作成する上で，どのような運動の楽しさや喜びを求めて学習を展開していくのか，単元全体の学習活動を方向付け，教師側と学ぶ側の目指す方向を一致させるためのものが**「ねらい」**である。

「ねらい」は主に教師が示すもので，それは運動の特性から導かれ，例えば「跳び箱運動」では「技に挑戦して楽しむ」，「ボール運動」では「チーム間で得点の競い合いをして楽しむ」というように提示することができる。

一方**「めあて」**とは，「①目標を設定する」・「②課題を選択する」・「③活動を決定する」など，運動の楽しさや喜びを求める活動の中で，今自分のもっている力でどのようなことができるか，あるいはどうしたいかという活動の内容を表すもので，児童生徒がもつものである。例えば，「跳び箱運動」の「技に挑戦して楽しむ」というねらいを受けて，「①かかえ込み跳びができるようになる。」・「②膝を胸に引き付けるタイミングをつかむ。」・「③低い高さの跳箱（凹型）で両足を跳び箱の上に乗せるようにする。」などの例が挙げられる。

また，めあてを学習の内容に据えた学習の進め方である「めあて学習」は，児童生徒の内発的な運動意欲を重視した学習形態（自己決定）であり，「教えられる体育」から自分の「めあて」をもち，創意工夫することで意欲的に運動を実践できる態度を身に付けさせようとするものである。児童生徒の主体的な学びを充実させるためには、自己決定を支えるための「教師のきめ細かな指導」が特に重要である。

「教師のきめ細かな指導」のためには，児童生徒のめあてを把握し，行動や反応・つまずきなどを事前に予想しておかなければならない。特に「つまずき」に対しては，それに対する具体的な支援や手立てを準備しておかなければならない。

そのためには，単元における指導と評価の計画が重要である。**指導目標（どのような資質・能力を育てるか）を明らかにし，指導方法（どのように身に付けさせるか）を考え，評価（身に付いた姿を見取る）をいつ行うか**計画することで，単元の見通しができ，きめ細かな指導の準備が行える。

３「学習過程」と「学習評価」の充実

学習評価は，学校における教育活動に関し，児童生徒の学習状況を評価するものである。

「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え，**教師が指導の改善を図る**とともに，**児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする**ためにも，学習評価の在り方は重要であり，教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められる。

各教科の評価については，学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」と，これらを総括的に捉える「評定」が学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施するものとされている。

（１）学校における指導と評価の工夫改善について

ア　指導と評価の一体化

指導と評価とは別物ではなく，評価の結果によって後の指導を改善し，さらに新しい指導の成果を再度評価するという，指導に生かす評価を充実させることが重要である。このことを「指導と評価の一体化」と言う。

指導と評価を一体的に，しかも不断に行いつつ，単元の終末においては全ての児童生徒に，評価規準が実現するよう努めることが重要である。

【例】３時間目に袈裟固めの指導を行い，５時間目に出来映えを見取った際，多くの生徒が評価規準Ｂに満たなかったので，教師が自らの指導の方法に問題がなかったか振り返った。
「生徒たちが，話合いで，技のポイントを教え合えたのは良かったが，初めて行う柔道の固め技なので，正しい形のイメージが出来ていないのでは？よし！袈裟固めの技の絵を大きくした掲示物に，話し合った内容の付箋紙を貼らせて，全体で技のポイントを視覚化して共有させよう。」と指導を改善し，次の授業で，多くの生徒が評価規準のＢに達した為，再度評価をした。このように，生徒の学びの状況（評価規準の身に付いている状況）から指導を改善し，児童生徒の学びを改善していくことが大切である。

「指導に生かす評価（日常の評価）」と「記録に残す評価（単元末の評価）」の違いに留意すること

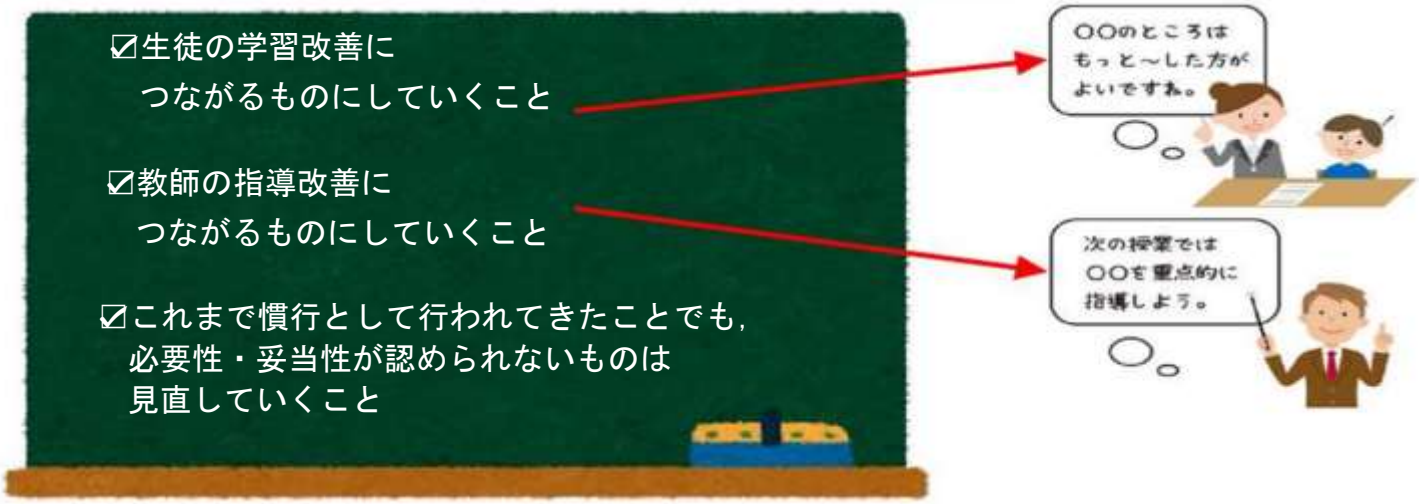
「指導に生かす評価」…指導内容が身に付いているかを見取り、適切な支援を行うことで児童生徒の学習改善、教師の指導改善につなげるために行う形成的評価

＊評価をもとに、Ｃの児童生徒の手立てや指導計画等を再調整する。

「記録に残す評価」…児童生徒の達成状況を見取り、記録に残して総括するための総括的評価。

＊単元の目標達成度を客観的に把握し、各観点の評価材料として記録する。

イ　学習評価の改善の基本的な方向性



ウ　評価の方針等の児童生徒との共有

学習評価の妥当性や信頼性を高めるとともに，児童生徒自身に学習の見通しを持たせるため，学習評価の方針を事前に児童生徒と共有する場面を必要に応じて設ける。

エ　観点別学習状況の評価を行う場面の精選

観点別学習状況の評価に係る記録（記録に残す評価）は，毎回の授業でなく，単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに行うなど，評価場面を精選する。

※日々の授業における，生徒の学習状況を適宜把握して，指導の改善に生かすことに重点を置くこと（指導に生かす評価）が重要。

オ　学校全体としての組織的かつ計画的な取組

教師の勤務負担軽減を図りながら学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう，学校全体としての組織的かつ計画的な取組を行うことが重要。

※例えば以下の取組が考えられえる。

- 教師同士での評価規準や評価方法の検討，明確化
- 実践事例の蓄積，共有。
- 評価結果の検討等を通じた教師の力量の向上
- 校内組織（学年会や教科部会等の活用）

（２）評価規準の工夫改善

ア　児童生徒の具体的な姿の想定と評価

「おおむね満足できる」状況（B）や「十分満足できる」状況（A）を判断する際，参考となるのが「児童生徒の具体的な姿」である。

活動している児童生徒たちの様子をイメージしたり，実際の児童生徒の様子を観察したりして，「児童生徒の具体的な姿」をある程度予想しておくことで，適切な評価がしやすくなる。また，学習活動における典型的なつまずきの例を把握しておくと適切な支援を行うことができる。

「児童生徒の具体的な姿」を生かした評価と支援の例

（単元の評価規準）

自分に合った易しい場において，インターバルを決まった歩数で最後まで走り越すことができる

自分に合った場で，最後のハードルまで，インターバルを同じ歩数で走り越している。

（「おおむね満足できる」状況と判断する「児童生徒の具体的な姿」の例」）

走り越した後も，体がぶれずに安定している。

（「十分満足できる」状況と判断する「児童生徒の具体的な姿」の例）

「走る」と「越す」の動きがスムーズにつなげられないまま走り越している。

（「努力を要する」状況と判断するつまずきの例）

＜具体的な支援の例＞

よい動きを観察したり，ハードルの高さや材質を変えた場で練習をしたりする。

児童生徒の具体的な姿の想定

- 児童生徒の学習状況を適切に把握することができる。
- 「努力を要する」状況（C）と判断される児童生徒に対して「おおむね満足できる」状況（B）になるよう具体的な手立てをより支援しやすくなる。

→　児童生徒の具体的な姿の教師間の共有　**評価の信頼性**

「十分満足できる」状況：「おおむね満足できる」状況から質的に高まっている状況を示している。

※上の例では「自分に合った易しい場でインターバルを，同じ歩数で走り越している」児童生徒の姿から「体がぶれずに安定して」走り越すことができている姿に動きの質の高まりが見てとれる。

※数量的な高まり（〇〇秒タイムが縮まったなど）を評価するものではない。

イ　評価の進め方（小学校）

（ア）単元の目標を作成する。（例：第１学年及び第２学年　　Ｂ　器械・器具を使っての運動遊び）

・単元の目標は学習指導要領本文を参考に，設定することができる。
・本文に示された内容は，各領域において育成を目指す資質・能力であるため，学習指導要領の趣旨等に基づく指導上の目標と捉えることができる。
・単元の目標の語尾は，「～することができるようにする」と表記する。

（１）**マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに，いろいろな方向に転がったり，手で支えての体の保持や回転**をしたりして遊ぶことができるようにする。
【知識及び技能】

（２）マットを使った**簡単な遊び方を工夫するとともに，考えたことを友達に伝えること**ができるようにする。
【思考力，判断力，表現力等】

（３）マットを使った**運動遊びに進んで取り組み，順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり，場の安全に気を付けたりすること**ができるようにする。
【学びに向かう力，人間性等】

※　学習指導要領本文を参考に設定（太字は引用部分）

（イ）単元の目標から評価の視点を整理する。

・「内容のまとまりごとの評価規準」をもとに，学習指導要領解説の表記などを用いて学習活動に対応した「単元の評価規準」を作成する。文末は下記のように表記する。

技能	～できる
知識 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」	～している
主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」以外	～しようとしている

・「知識・技能」については，知識の評価規準と技能の評価規準に分けて設定する。
・「思考・判断・表現」については，「思考・判断」の評価規準と「表現」の評価規準に分けて設定する。
・「主体的に学習に取り組む態度」については，愛好的態度，公正・協力，責任・参画，共生，健康・安全の各項目に分けて設定する。

（ウ）指導計画を立案する

・児童の実態を踏まえ，単元の目標の達成に向けた指導計画を作成する。
・指導する内容の順序や指導にかけることができる時間等を考慮し，無理のない計画に留意する。

時間	1	2	3	4	5	6
0 45	・オリエンテーション ・感覚つくりの運動遊び紹介 ・学習カードの使い方	・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり ・転がり方を組み合わせる。	・腕支持での川跳び ・腕支持での平均台跳び ・川跳びからの腕立て横跳び越し	・さかさまになる動き ・さかさまからのブリッジ	・グループでマットランドの場を作る。 ・作ったランドをグループ間で紹介し合う。	・他のグループが作ったランドで楽しむ。 ・もっと楽しいランドになるよう工夫する。

（エ）単元の評価規準を作成する。

・「内容のまとまりごとの評価規準」と指導計画における児童の活動を考慮し，児童の学びの姿としてより具体化した評価規準を作成する。

・各観点とも複数個に細分した評価規準を想定するが，順序性を示すものではないことに留意する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①マットを使った運動遊びの行い方について言ったり、実際に動いてみたりしている。 ②マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。 ③手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりして遊ぶことができる。	①坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることができるような場を選んでいる。 ②腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいる。 ③友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書き出したりしている。	①動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。 ③場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④場の安全に気を付けている。

（オ）指導と評価の計画を作成する。

・単元計画のうち，いつ，どの場面で，何をどのように見取るのかの計画を立てる。

・指導計画の下に評価の計画を重ね合わせ，指導と評価の計画を作成する。

・１時間につき１～２程度の評価観点にするなど，評価をするに当たり無理のない計画を立てる。

時間	1	2	3	4	5	6
	オリエンテーション ・学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認 感覚つくりの運動遊びの紹介	場の準備 → 準備運動（感覚つくりの運動遊び）				
		ころころランド ・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり	ぴょんぴょんランド ・腕支持での川跳び ・腕支持での平均台跳び	さかさまランド ・跳び箱を使って ・肋木を使って	マットランドで楽しもう グループでマットランドの場を作って楽しむ。 作ったランドをグループ間で紹介し合って楽しむ。	他のグループが作ったランドで楽しむ。 もっと楽しいランドになるよう工夫する。 動きのバリエーションを楽しむ。
		振り返り→遊びのバリエーションの紹介 転がり方を組み合わせる。	川跳びからの腕立て横跳び越し	さかさまからのブリッジ		
	振り返り→整理運動→片付け					
知		② 観察・ICT	③ 観察	① 観察		
思			③ 観察・カード		① 観察	② 観察
態	④ 観察	③ 観察		① 観察・カード	② 観察・カード	

指導に生かす評価後に期間を設けて記録に残す評価をする観点（技能や態度の「主に観察で評価するもの」「習得や活用の段階を踏まえて一定期間を置くもの」）については，内容と矢印で指導と評価の機会を示す場合も考えられる。　ウ　評価の進め方（中学校）」参照

観点や計画する単元の総時数によっては必ずしも必要ではない。

（カ）観点ごとに総括する。

・総括の仕方については，学年又は学校として統一しておくことが重要。

・原則論にとらわれることなく様々な状況を踏まえ，児童の学習状況を見取ることが大切。

・単元の前半に評価したことをもって，その観点の評価を確定することには留意が必要である。

ウ　評価の進め方（中学校）

（ア）単元の目標を作成する。（例：第１学年及び第２学年「Ｅ　球技：ゴール型（サッカー）」）

・学習指導要領解説の「第２　各学年の目標及び内容」の　「２　内容」に育成を目指す「資質・能力」が示されている。このため，「２　内容」の記載はそのまま学習指導の目標となりえる。

・語尾を「～することができるようにする。」として作成。

単元の目標

（１）次の運動について，勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，球技の特性，技術の名称や行い方を理解するとともに，基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開**することができるようにする。**ゴール型では，ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を**することができるようにする。**

【知識及び技能】

（２）攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に**伝えることができるようにする。**

【思考力，判断力，表現力等】

（３）球技に積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，作戦などについての話合いに参加しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること，仲間の学習を援助しようとすることなどや，健康・安全に気を配ることが**できるようにする。**

【学びに向かう力，人間性等】

（イ）単元の評価規準を作成する。

・体育分野では指導内容を一層明確にするため，学習指導要領解説において指導内容の全てに例示が示されたため，例示をもとに文末を変えて作成することができる。文末は下記のように表記する。

観点		文末等
知識・技能	知識	**「～について，言ったり書き出したりしている」** ※一般的に認知された科学的な知識を内容とするもので，各学校や教師の指導によって大きく相違が無いもの。（「特性や成り立ち」等）
		「～について，学習した具体例を挙げている」 ※学校や生徒の実態に合わせて，指導する教師により取り扱われる内容に相違が予想されるもの。（「技の名称や行い方」等）
	技能	**「～できる」**
思考・判断・表現		**「～している」**
主体的に学習に取り組む態度		**「～しようとしている」** ※意思や意欲を育てるという情意面の例示に用いる。
		「～に留意している」「～を確保している」 ※「健康・安全」の観点に用いる。意欲をもつにとどまらず，実践することが求められているため。

・「知識・技能」の評価について

知識・技能に分けて評価をし，最終的に「知識・技能」の観点に総括する。

これは，「知識・技能」を総括した評価を提示するだけでは，生徒自身の学習の改善につなげる情報が不足するとの考えに基づいている。

・「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

体育分野においては，豊かなスポーツライフを実現することを重視し，内容のまとまりごとに「学びに向かう力，人間性等」に対応した，愛好的態度，公正，協力，責任，参画，共生及び健康・安全の具体的な指導内容を示している。

学習評価は，目標や内容に対応して行われるため，それぞれの指導内容の評価規準を細かく作成することができる。

【単元の評価規準作成の手順】

①全ての「単元の評価規準」を作成する。

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ・球技には，集団対集団，個人対個人で攻防を展開し，勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて，言ったり書き出したりしている。 ・学校で行う球技は近代になって開発され，今日では，オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて，言ったり書き出したりしている。 ・球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり，それらを身に付けるためのポイントがあることについて，学習した具体例を挙げている。 ・対戦相手との競争において，技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて，学習した具体例を挙げている。 ・球技は，それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて，学習した具体例を挙げている。	○技能 ・ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ・マークされていない味方にパスをき出すことができる。 ・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ・パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。 ・ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。 ・パスを受けるために，ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ・ボールを持っている相手をマークすることができる。 ※ネット型，ベースボール型は省略	・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。 ・提供された練習方法から，自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・学習した安全上の留意点を，他の学習場面に当てはめ，仲間に伝えている。 ・練習やゲームの場面で，最善を尽くす，フェアなプレイなどのよい取組を見付け，理由を添えて他者に伝えている。 ・仲間と協力する場面で，分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ・仲間と話し合う場面で，提示された参加の仕方に当てはめ，チームへの関わり方を見付けている。 ・体力や技能の程度，性別等の違いを踏まえて，仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け，仲間に伝えている。	・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして，フェアなプレイを守ろうとしている。 ・作戦などについての話合いに参加しようとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。 ・練習の補助をしたり仲間に助言したりして，仲間の学習を援助しようとしている。 ・健康・安全に留意している。

②全ての「単元の評価規準」の中から当該単元における指導事項を踏まえ選ぶ。

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①球技には，集団対集団，個人対個人で攻防を展開し，勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて，言ったり書き出したりしている。 ・学校で行う球技は近代になって開発され，今日では，オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて，言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり，それらを身に付けるためのポイントがあることについて，学習した具体例を挙げている。 ・対戦相手との競争において，技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて，学習した具体例を挙げている。 ・球技は，それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて，学習した具体例を挙げている。	○技能 ①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ・マークされていない味方にパスをき出すことができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ・パスやドリブルなどでボールをキープすることができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。 ・パスを受けるために，ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ・ボールを持っている相手をマークすることができる。 ※ネット型，ベースボール型は省略	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。 ・提供された練習方法から，自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・学習した安全上の留意点を，他の学習場面に当てはめ，仲間に伝えている。 ・練習やゲームの場面で，最善を尽くす，フェアなプレイなどのよい取組を見付け，理由を添えて他者に伝えている。 ②仲間と協力する場面で，分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で，提示された参加の仕方に当てはめ，チームへの関わり方を見付けている。 ・体力や技能の程度，性別等の違いを踏まえて，仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け，仲間に伝えている。	・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。 ・マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして，フェアなプレイを守ろうとしている。 ・作戦などについての話合いに参加しようとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。 ①練習の補助をしたり仲間に助言したりして，仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。

③当該単元における「単元の評価規準」を設定する。

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①球技には，集団対集団，個人対個人で攻防を展開し，勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて，言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり，それらを身に付けるためのポイントがあることについて，学習した具体例を挙げている。	○技能 ①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②仲間と協力する場面で，分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で，提示された参加の仕方に当てめ，チームへの関わり方を見付けている。	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして，仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。

・ここでの○数字は，評価の順番を示しているわけではないことに留意する。

（ウ）指導と評価の計画を作成する。

単元の目標	知識及び技能	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに，基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開し，ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。
	思考力，判断力，表現力等	攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
	学びに向かう力，人間性等	球技に積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，作戦などについての話合いに参加しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること，仲間の学習を援助しようとすることなどや，健康・安全に気を配ることができるようにする。

	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
学習の流れ	0	オリエンテーション	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動								
			ボール操作 シュート パス トラップ		ボール操作の反復練習						
	10				**空間に走り込むなどの動き** ボールとゴール		**課題の確認と解決の練習** ボール操作 空間に走り込む			**ゲームIの修正** 最終リーグ戦I	最終リーグ戦II
	20										
	30	ボール慣れゲーム	**シュートゲーム** ゲーム記録の活用		**グリッド突破ゲーム** 仲間の即時の助言		**簡易ゲームI** 人数・コート・ルール等の簡易化				単元のまとめ
	40										
	50	整理運動・学習の振り返り・次時の確認									

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
評価機会	知識	①（カード）				②（カード）					総括的な評価
	技能		シュート→ パス→	①（観察）	位置→	②（観察）	③（観察）				
	思・判・表						②（観察・カード）	①（観察・カード）		③（観察・カード）	
	態度	健康・安全→	②（観察）	協力→	①（観察）						

単元の評価規準	知識	①球技には，集団対集団，個人対個人で攻防を展開し，勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて，言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり，それらを身に付けるためのポイントがあることについて，学習した具体例を挙げている。
	技能	①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。
	思・判・表	①提供された練習方法から，自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶこと。 ②仲間と協力する場面で，分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で，提示された参加の仕方に当てはめ，チームへの関わり方を見付けている。
	態度	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして，仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。

・指導場面と評価機会の関係

評価	評価機会	
「技能」 「主体的に学習に取り組む態度」	指導後に一定の学習期間及び評価期間を設ける。	技能の獲得，向上や態度の育成等に一定の期間が必要となり，主に観察評価によって評価を行うため。
「知識」 「思考・判断・表現」	指導から期間を置かず評価する。	主に学習カード等に記述された内容から評価の材料を得ようとするため。 ※生徒の発言等の観察評価によって得られた評価の材料を加味して，評価の妥当性，信頼性等を高める工夫が必要。

※評価の方法によっては，必ずしも評価の機会がこのとおりとは限らない。
しかし，従前の国立教育政策研究所の資料においても，同様の記載があることから，重要なポイントとなり得る。

・「総括的な評価の役割」
生徒一人一人の学習状況を明確にし，その後の生徒の学習や教師の指導改善に生かすもの（指導と評価の一体化）にするためには，単元の適切な場面での評価が重要となる（評価の重点化）。特に，「努力を要する」状況（C）への対応を素早く，丁寧に行わなければならない。「総括的な評価」は重点化された評価の機会における評価結果の活用により，その後の学習や指導の改善を経た上で最終確認し，観点別学習状況の評価を確定することで，学習評価の妥当性・信頼性を高めるという意図に基づいている。

（例）
「知識・技能」の「知②」について，生徒イは，５時間目ではＣの評価であったが，知識と技能を関連させて指導を行い，１０時間目の総括的な評価で「おおむね満足できる」状況が認められたことからＢと評価した。

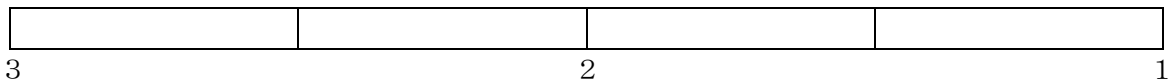
（エ）観点ごとに総括する。
・集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから，観点ごとの総括的評価（A，B，C）を行う。
（例）

<table>
<tr><td colspan="2">単元名</td><td colspan="2">体つくり運動</td><td colspan="2">陸上競技</td><td colspan="2">球技（ゴール型）</td><td colspan="2">総括</td></tr>
<tr><td colspan="2">時間数</td><td colspan="2">4</td><td colspan="2">１０</td><td colspan="2">１０</td><td colspan="2" rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">項目</td><td>評価</td><td>規準数</td><td>評価</td><td>規準数</td><td>評価</td><td>規準数</td></tr>
<tr><td rowspan="4">生徒ロ</td><td>知</td><td>B　B
(2)　(2)</td><td>2</td><td>A　A
(3)　(3)</td><td>2</td><td>A　A
(3)　(3)</td><td>2</td><td>A
(2.67)</td><td rowspan="2">A
(2.54)</td></tr>
<tr><td>技</td><td></td><td></td><td>B　B
(2)　(2)
A　A
(3)　(3)</td><td>4</td><td>B　A
(2)　(3)
B
(2)</td><td>3</td><td>B
(2.43)</td></tr>
<tr><td>思</td><td>A　A
(3)　(3)</td><td>2</td><td>B　B
(2)　(2)</td><td>2</td><td>A　A
(3)　(3)
B
(2)</td><td>3</td><td colspan="2">A
(2.57)</td></tr>
<tr><td>態</td><td>B
(2)</td><td>1</td><td>A　A
(3)　(3)</td><td>2</td><td>B　A
(2)　(3)</td><td>2</td><td colspan="2">A
(2.60)</td></tr>
</table>

○　A，B，Ｃの組み合わせに基づいて総括する例
「知識・技能」は「知識」Ａで「技能」Ｂだが，全ての評価の数を比べて多い方の評価とすることを事前に取り決めていたので，Ａ数が７，Ｂの数が６のため，総括はＡとする。
「思考・判断・表現」のＡの数が４，Ｂの数が３のため，総括はＡとする。
「主体的に学びに向かう態度」のＡの数が３，Ｂに数が２のため，総括はＡとする。

○　A，B，Ｃを数値に表したものに基づいて総括する例

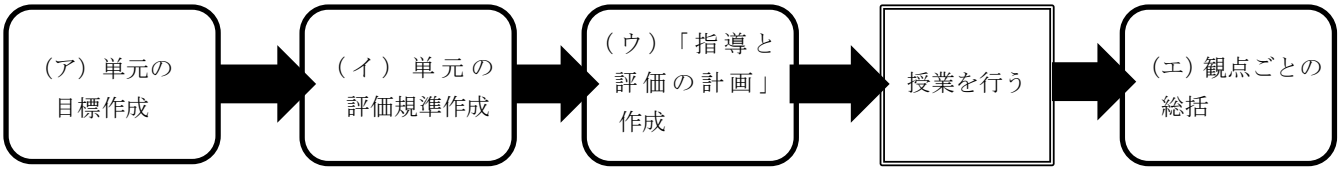
Ａ中学校で設定した総括の基準の例
Ａ＞２．５０　　２．５０≧Ｂ≧１．５０　　１．５０＞Ｃ



「知識」の平均は（２．６７）となり，Ａと総括する。
「技能」の平均は（２．４３）となり，Ｂと総括する。
ＡとＢが混在するが「知識・技能」の平均は（２．５４）となるため，Ａと総括する。
「思」，「態」も平均から総括する。

エ　評価規準の設定（高等学校）

「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成例



（ア）単元の目標作成

a　学習指導要領「第２章　第２節　３　内容」から当該単元の目標となる部分を明示する。

b　単元の目標の語尾は，「～することができるようにする。」とする。

例）Ｂ　球技【入学年次】

知識及び技能	次の運動について，勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解するとともに，作戦に応じた技能で仲間と連携しでゲームを展開することができるようにする。 ウ　ベースボール型では，安定したバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と連携した守備などによって攻防 することができるようにする。
思考力，判断力，表現力等	攻防などの自己やチームの課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
学びに向かう力，人間性等	球技に自主的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，作戦などについての話合いに貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い教え合おうとすることなどや，健康・安全を確保することができるようにする。

（イ）単元の評価規準作成

a　全ての「単元の評価規準」を作成する。

・科目体育では指導内容を一層明確にするため，学習指導要領解説において指導内容の全てに例示が示されたため，例示をもとに文末を変えて作成することができる。文末は下のように表記する。

観点		文末等
知識・技能	知識	「～について，言ったり書き出したりしている」 ※一般的に認知された科学的な知識を内容とするもので，各学校や教師の指導によって大きく相違が無いもの。（「特性や成り立ち」等）
		「～について，学習した具体例を挙げている」 ※学校や生徒の実態に合わせて，指導する教師により取り扱われる内容に相違が予想されるもの。（「技の名称や行い方」等）
	技能	「～できる」
思考・判断・表現		「～している」
主体的に学習に取り組む態度		「～しようとしている」 ※意思や意欲を育てるという情意面の例示に用いる。
		「～に留意している」「～を確保している」 ※「健康・安全」の観点に用いる。意欲をもつにとどまらず，実践することが求められているため。

b　当該単元における「単元の評価規準」を作成する。

・全ての「単元の評価規準」から選択したり，作成したりするなどして，当該単元の評価規準を設定する。

例）B　球技【入学年次】全ての「単元の評価規準」

観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	○知識 ①・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術，作戦には名称があり，それらを身に付けるためのポイントがあることについて，**学習した具体例を挙げている。** ・戦術や作戦に応じて，技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて，**学習した具体例を挙げている。** ・ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり，継続して行ったりすることで，結果として体力を高めることができることについて，**学習した具体例を挙げている。** ②・練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには，自己観察や他者観察などの方法があることについて，**言ったり書き出したりしている。**	○技能 ①・身体の軸を安定させてバットを振りぬくこと**ができる。** ②・タイミングを合わせてボールを捉えること**ができる。** ・ねらった方向にボールを打ち返すこと**ができる。** ・スピードを落とさずに円を描くように塁間を走ること**ができる。** ・打球や守備の状況に応じた塁の回り方で，塁を進んだり戻ったりすること**ができる。** ③捕球場所へ最短距離で移動して，相手の打ったボールを捕ること**ができる。** ④・ねらった方向へステップを踏みながら，一連の動きでボールを投げること**ができる。** ・　仲間の送球に対して塁上でタイミングよくボールを受けたり，中継したりすること**ができる。** ・味方からの送球を受けるために，走者の進む先の塁に動くこと**ができる。** ・打球や走者の位置に応じて，中継プレイに備える動きをすること**ができる。**	・選択した運動について，合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して，成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に**伝えている。** ①自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について，自己の考えを**伝えている。** ・選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を**選んでいる。** ・健康や安全を確保するために，体調や環境に応じた適切な練習方法等について**振り返っている。** ・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で，よりよいマナーや行為について，自己の活動を**振り返っている。** ・チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて，自己の活動を**振り返っている。** ・作戦などの話合いの場面で，合意形成するための関わり方を見付け，仲間に**伝えている。** ②・体力や技能の程度，性別等の違いに配慮して，仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を**見付けている。** ・球技の学習成果を踏まえて，自己に適した「する，みる，支える，知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を**見付けている。**	①・球技の学習に自主的に**取り組もうとしている。** ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとすること。 ・作戦などについての話合いに**貢献しようとしている。** ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを**大切にしようとしている。** ②互いに練習相手になったり仲間に助言したりして，互いに助け合い**教え合おうとしている。** ③健康・安全を**確保している。**

例）B　球技【入学年次】当該単元における「単元の評価規準」
※ここでの○数字は，評価の順番を示しているわけではないことに留意する。

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術，作戦には名称があり，それらを身に付けるためのポイントがあることについて，学習した具体例を挙げている。 ②練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには，自己観察や他者観察などの方法があることについて，言ったり書き出したりしている。	○技能 ①身体の軸を安定させてバットを振りぬくことができる。 ②タイミングを合わせてボールを捉えることができる。 ③捕球場所へ最短距離で移動して，相手の打ったボールを捕ることができる。 ④ねらった方向へステップを踏みながら，一連の動きでボールを投げることができる。	①自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について，自己の考えを伝えている。 ②体力や技能の程度，性別等の違いに配慮して，仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。	①球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ②互いに練習相手になったり仲間に助言したりして，互いに助け合い教え合おうとしている。 ③健康・安全を確保している。

（ウ）指導と評価の計画を作成する。

領域　球技　ベースボール型（ソフトボール）　　年次［　入学年次　］

単元の目標	知識及び技能	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，技術の名称や行い方，体力の高め方，運動観察の方法などを理解するとともに，作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ベースボール型では，安定したバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができるようにする。
	思考力，判断力，表現力	攻防などの自己やチームの課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
	学びに向かう力，人間性等	球技に自主的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，作戦などについての話合いの貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い教え合おうとすることなどや，健康・安全を確保することができるようにする。

学習の流れ

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
0	整列・挨拶・出席確認・健康と安全の確認・準備運動・補強運動等															
10	オリエンテーション	基本技術練習 ○ボール操作の確認とボールの握り方 ・ボール慣れ ○捕球の姿勢とグローブの使い方 ・キャッチボール ・ゴロ捕球			基本技術練習 ・キャッチボール ・ボール回し ・フィールディング ・捕球から送球までの一連の動き ・走塁			班編成 チーム練習			班別課題練習 予想されるチームの課題に即した練習 ・ポジションノック ・バッティング練習 ・ボールを持たないときの動き　等					単元の振り返り（撮影動画視聴）
20	健康							簡易ルールでのゲーム（実態に応じたルール） 例 ・ティーボール ・スリーアウト制の緩和 ・ストライクやボールなどルールの緩和等			リーグ戦 作戦タイム 簡易ルール 正規ルールに近いルールでのゲーム　等					
30	キャッチボール（実態の記録）	基本自術練習 ○バット操作の確認 ・握り方 ・操作の仕方 ・ミートポイント ・バットスイング ・ティーバッティング			基本練習 ・フリーバッティング ・個人ノック ・ポジションノック ・ピッチング											学習カードまとめ
40																
50	整理運動・本時の振り返り・学習カードの記入・次時の見通し・健康観察・挨拶・片付け等															

タブレット端末での動画撮影（知識・技能の往還）

授業づくりのポイント

男女や個々の経験，技能差が比較的大きい種目であるため，前半はボール操作やバット操作といったような基礎技能の習得を活動の中心とする。

後半はリーダーを中心としたグループ別学習での活動とする。

学習カードや ICT 機器の効果的な活用，作戦タイムによる話し合い活動，課題別練習による教え合い活動を充実させ，チームや個人の課題解決に向け，粘り強く取り組むことで「主体的・対話的で深い学び」を実践する。

生徒の実態に応じて，タブレット端末で動画を撮影することにより，知識と技能の確認ができるようにする。

評価機会

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	評価方法
知識	①			②							①	②				総括的評価	学習カード・観察
技能					①		ステップ				捕球場所		②	④	③		観察
思判表								②						①			学習カード・観察
態度				③					②						①		観察

単元の評価規準

知識	①球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術，作戦には名称があり，それらを身に付けるためのポイントがあることについて，学習した具体例を挙げている。 ②練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには，自己観察や他者観察などの方法があることについて，言ったり書き出したりしている。
技能	①身体の軸を安定させてバットを振りぬくことができる。 ②タイミングを合わせてボールを捉えることができる。 ③捕球場所へ最短距離で移動して，相手の打ったボールを捕ることができる。 ④ねらった方向へステップを踏みながら，一連の動きでボールを投げることができる。
思考・判断・表現	①自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について，自己の考えを伝えている。 ②体力や技能の程度，性別等の違いに配慮して，仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。
態度	①球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ②互いに練習相手になったり仲間に助言したりして，互いに助け合い教え合おうとしている。 ③健康・安全を確保している。

（エ）観点ごとの総括【評価】

・集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから，観点ごとの総括的評価（A，B，C）を行う。

◇評価結果のA，B，Cの数を基に総括する例

例）　「思考・判断・表現」について３回評価をした場合

・AAB　→　A　　・BBC　→　B　　・ABC　→　B

「知識・技能」は「知識」Aで「技能」Bだが，全ての評価の数を比べて多い方の評価とすることを事前に取り決めていたので，A数が７，Bの数が６のため，総括はAとする。

「思考・判断・表現」のAの数が４，Bの数が３のため，総括はAとする。

「主体的に学習に取り組む態度」のAの数が３，Bの数が２のため，総括はAとする。

（例）

単元名		体つくり運動		陸上競技		球技（ゴール型）		総括	
時間数		4		１０		１０			
項目		評価	規準数	評価	規準数	評価	規準数		
生徒ロ	知	B　B (2)　(2)	2	A　A (3)　(3)	2	A　A (3)　(3)	2	A (2.67)	A (2.54)
	技			B　B (2)　(2) A　A (3)　(3)	4	B　A (2)　(3) B (2)	3	B (2.43)	
	思	A　A (3)　(3)	2	B　B (2)　(2)	2	A　A (3)　(3) B (2)	3	A (2.57)	
	態	B (2)	1	A　A (3)　(3)	2	B　A (2)　(3)	2	A (2.60)	

◇評価結果のA，B，Cを数値に置き換えて総括する。

例）　A○＝５　　A＝４　　B＝３　　C＝２　　C△＝１

A ≧ 4.00　　4.00 ＞ B ≧ ２．５０　　2.50＞C

5段階で評価し評定へ総括する例

A高校における年間指導計画の1学期の総括の例

単元名		体つくり運動		体育理論		領域選択（器械運動）		総括		評定
時間数		5		3		18				
項目		評価	評価規準数	評価	評価規準数	評価	評価規準数			
生徒A	知	B　B (3)　(3)	2	A　B (4)　(3)	2	B　B　A (3)　(3)　(4)	3	B (3.29)	B (3.70)	4 or 3
	技					A○　A　A○ (5)　(4)　(5)	3	A (4.67)		
	思	A　B (4)　(3)	2	B (3)	1	ABBB (4)(3)(3)(3)	4	B (3.29)		
	態	B (3)	1		0	A　A○　A○ (4)　(5)　(5)	3	A (4.25)		

◇観点別評価の評定への総括の例

例）　・BBB　→　３　　・AAA　→　５　　・AAB　→　４

※「知・技」「思・判・表」「態度」の順に示しています。

4　「学習指導案」の形式例

【体育】

体育科・保健体育科学習指導案

令和○年○月○日（　）第○時限　活動場所
第○学年○組　○○名
指導者名　　○　○　○　○

1　単元名

2　単元について

体育は運動の特性について記述する。

（1）一般的な特性

その運動種目の特性を，一般的な魅力や楽しさ楽しみ方，運動の構造などいくつかの立場から明らかにし，それを求める学習活動の基本的な方向付けを示す。（それぞれの特性は，Ｐ３２～３５参照）
「機能的特性」「構造的特性」「効果的特性」に分けるとよい。特に，「機能的特性」は，「深い学び」につながるものであるので，確実におさえておく。

（2）児童（生徒）から見た特性

児童（生徒）と運動との関係から運動の特性を捉え直す。
・運動をどのように受け止めているのか
・運動のどこに楽しさや喜びを感じているのか（阻害要因も）
・運動の楽しさや喜びを味わうためにどのような学習ができるのか（どのような楽しみ方や工夫ができるのか）
※「児童（生徒）から見た特性」を明らかにすることによって運動に対する興味・関心の傾向や能力・適性等児童（生徒）の特徴がわかり，具体的な学習のねらいや指導活動の目安，学習集団の組織の仕方や学習活動の場の工夫の方向性が導かれる。

（3）児童（生徒）の実態　※実態調査アンケート（事前の評価）

学習の準備状態（レディネス）の把握
・運動の特性に触れる楽しさ体験の状況（運動に対する興味・関心・欲求・意欲など）
・運動の特性に応じた楽しみ方に関する学習経験の状況
　自分の力にあっためあてをもてるか，めあて達成のための運動の工夫や練習・挑戦ができるか　等
・運動の技能の習得状況，ルールの理解状況
※調査の結果は，図・表などで分かりやすく表示し，参考として添付するとよい。
※ここには、教師の主観等は入れず、事実のみを述べる。

（4）教師の指導観

単元の特性と児童（生徒）の実態から考え，児童（生徒）たちにより深い楽しさを味わわせるために，単元のどこに重点を置き，どのように指導しようとするのかを書く。
運動の一般的特性，運動とそのクラスの児童（生徒）の関係や運動に対する能力や興味関心等の相違の度合い（学習の準備状況）から，学習のねらいや学習集団の組織の仕方，学習活動の場の工夫の方向など授業をどのように設計していくかの見通しを明らかにする。

3　単元目標

「学習指導要領の内容」を参考に、設定することができる　Ｐ４０・４２・４６参照

○知識及び技能
○思考力，判断力，表現力等
○学びに向かう力，人間性等

語尾→「～できるようにする。」

4　評価規準　　（国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料を参照）

小学校

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	学習指導要領に示す目標及び内容「２　内容」の項目等をそのまとまりごとに細分化したり整理したりして示したもの ◆学習指導要領の「２　内容」の文末を変えて作成 ※国政研資料の「巻末資料」に参考例あり ※記載省略可だが，これを基に「単元の評価規準」を作成する点を押さえておく		
単元の評価規準	児童の実態等を考慮しつつ、「内容のまとまりごとの評価規準」を踏まえて作成する ①（知識）～している ②（技能）～できる ③ ※知識と技能で分けて設定 （例） 知：言える，書き出す，説明，実際に行う 技：（連続して・滑らかに・安定して）できる	①～している ② ③ ※思考・判断と表現で分けて設定 （例） 思・判：予想，分析，判断，選ぶ，見つける，設定 表：（よい・工夫した動きを）書き出したりする	①（健康・安全）～している ②（健康・安全以外） ③　　～しようとしている ※愛好的態度，公正・協力，責任・参画，共生，健康・安全の項目に分けて設定 （例） 取組の姿，協力，励まし，支える役割，他を認める，自他の安全

中学校・高等学校

	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	○知識 ・ ○技能 ・ 学習指導要領に示す目標及び内容「２　内容」の項目等をそのまとまりごとに細分化したり整理したりして示したもの ◆学習指導要領の「２　内容」の文末を変えて作成 ※国政研資料の「巻末資料」に参考例あり ※記載省略可だが，これを基に「単元の評価規準」を作成する点を押さえておく			
単元の評価規準	○知識 ①～について，言ったり書き出したりしている。 あるいは， ～について，学習した具体例を挙げている。 ② ③	○技能 ①～ができる。 ② ③	①～している。 ② ③ 例）例示 ～出来映えを伝えること。 評価規準 ～出来映えを伝えている。	①（健康・安全以外） ②　　～しようとしている。 ③（健康・安全） ～に留意している。 ～確保している。 ※健康・安全については，意欲にとどまらず実践することが求められている。

学習指導要領解説の例示をもとに作成することができる。
留意点については、国政研資料中学校　Ｐ４３参照
留意点については、国政研資料高等学校Ｐ４８参照

5　指導と評価計画の例

○指導と評価の一体化（何を身に付けさせ，何を評価するのか。指導内容と評価内容が一致しているか）

○効果的・効率的な評価（単元の評価規準について「いつ・どの観点を」評価するかを示す）

○「３　単元目標」及び「４　評価規準」は，「３　指導と評価の計画」として以下の例のように統合することも可能。

体育「球技」（ゴール型：サッカー）中学校第１学年における指導と評価の計画の例

単元の目標	知識及び技能	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい，球技の特性や成り立ち，技術の名称や行い方，その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに，基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開し，ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。
	思考力，判断力，表現力等	攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
	学びに向かう力，人間性等	球技に積極的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，作戦などについての話合いに参加しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること，仲間の学習を援助しようとすることなどや，健康・安全に気を配ることができるようにする。

	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
学習の流れ	0	オリエンテーション	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動								
	10		**ボール操作** シュート パス トラップ		ボール操作の反復練習 **空間に走り込むなどの動き** ボールとゴール		**課題の確認と解決の練習** ボール操作 空間に走り込む			最終リーグ戦Ⅰ **ゲームⅠの修正**	最終リーグ戦Ⅱ
	20										
	30	ボール慣れゲーム	**シュートゲーム** ゲーム記録の活用		**グリッド突破ゲーム** 仲間の即時の助言		**簡易ゲームⅠ** 人数・コート・ルール等の簡易化				単元のまとめ
	40										
	50	整理運動・学習の振り返り・次時の確認									
評価機会		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	知識	①（カード）				②（カード）					総括的な評価
	技能		シュート → ①（観察） パス → ②（観察）		位置 → ②（観察）		③（観察）				
	思・判・表						②（観察・カード）	①（観察・カード）		③（観察・カード）	
	態度	健康・安全 → ②（観察）		協力 → ①（観察）							

単元の評価規準	知識	①球技には，集団対集団，個人対個人で攻防を展開し，勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて，言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり，それらを身に付けるためのポイントがあることについて，学習した具体例を挙げている。
	技能	①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。
	思・判・表	①提供された練習方法から，自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶこと。 ②仲間と協力する場面で，分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で，提示された参加の仕方に当てはめ，チームへの関わり方を見付けている。
	態度	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして，仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。

※小学校においては，知識と技能は一つにまとめる。（評価機会）

「４　評価規準」で作成したものを，いつ評価するのかを示す。
指導後に期間を設けて評価する観点は，□と矢印で指導と評価の機会を示す。

☆評価の機会等に関する留意事項

・「知識・技能」の観点の「技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」の二つの観点における評価は，技能の獲得，向上や態度の育成等に一定の学習期間が必要となること，主に観察評価によって評価を行うことから，指導後に一定の学習期間及び評価期間を設け，評価する。

・「知識・技能」の観点の「知識」及び「思考・判断・表現」の二つの観点における評価は，知識を活用する場面や思考・判断したことを表現する場面などを設定し，指導から期間を置かずに評価する。

・１単位時間の評価項目は１～２程度とし，全児童（生徒）を評価する。

6　本時の指導（6／10）

（1）目標

○知識及び技能
◎思考力，判断力，表現力等
○学びに向かう力，人間性等

語尾→「～できるようにする。」
評価規準に該当する項目は◎で、その他は○で記載する。
（指導と評価の計画の評価の機会と合わせる）

（2）展開

１単位時間の中で評価する内容は，『指導と評価の計画』に基づいて，絞り込んだもの（１項目，多くても２項目）とする。
※評価の結果「努力を要する」状況（C）と判断した児童（生徒）への支援の手立てを具体的に示す。
例）努力を要する児童（生徒）に対し，個別に説明したり示範したりするなどして，技能のポイントをつかめるよう支援する。

過程	時間	学 習 内 容 と 活 動	指導・支援(○)，評価（☆）	用具・資料
導入	１０分	①学習内容の理解・確認 ②学習活動の行い方 ③準備・点呼・健康観察など		
展開	３０分	・学習内容の順序を定めて書く ・運動の組み合わせや運動する場所，思考する場所，評価する場などを配慮する ・興味や技能を追求し，より深い楽しさや喜びを味わう学習活動として捉えて示す ４ 評価規準「単元の評価規準」を記載 つまずき，努力を要する児童・生徒の具体的な姿 努力を要する児童・生徒への具体的な支援や手立て	☆評価規準・評価計画に基づき，評価の場面を具体的に示す。 「おおむね満足できる」状況（B）を判断する「児童・生徒の具体的な姿」から「つまずき」の例を把握し，それに対する具体的な支援を示す。 （記入例） ☆～している。【思考・判断・表現】 （観察・学習カード） ・適切な～を選んでいない。 →個にあった練習の方法を助言する。 ・友達と協力して取り組んでいない。 →具体的な視点を助言する。	
まとめ	１０分	①目標に対する活動の評価・振り返り ②整理運動・健康観察 ③用具の後片付けなど		

【保健】

保健体育科学習指導案

令和○年○月○日（　）第○時限　活動場所
第○学年○組　○○名
指導者名　　○　○　○　○

1　単元名　　「生活習慣病などの予防と回復(がん)」(第１学年)
2　単元について
（1）　生徒の実態

学習の準備状態（レディネス）の把握
・児童生徒の学習の様子や、これまでの保健の学習における指導内容の定着状況等について明記する。
※調査の結果は，図・表などで分かりやすく表示し，参考として添付するとよい。
※ここには、教師の主観等は入れず、事実のみを述べる。

（2）　教師の指導観

単元の内容について学習指導要領解説を参考に教材の特徴や生徒の実態から、教師がどのような内容に力点を置き、どのように指導していくかを具体的に明記する。

3　単元目標
（1）生活習慣病などの予防と回復について，自他や社会の課題を発見し，その解決を目指した活動を通して，健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には，運動，食事，休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見，及び社会的な対策が必要であることを理解することができるようにする。
（2）生活習慣病などの予防と回復について，課題を発見し，健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに，それらを表現することができるようにする。
（3）生活習慣病などの予防と回復についての学習に主体的に取り組むことができるようにする。

「学習指導要領解説の内容」を参考に設定することができる
○知識及び技能
○思考力，判断力，表現力等
○学びに向かう力，人間性等
文末→「～できるようにする。」

4　指導と評価の計画

（1）中学校保健分野「欲求やストレスへの対処と心の健康」指導と評価の計画の例

時	学習内容・学習活動	評価の重点			評価方法等
		知技	思判表	態度	
1	・心と体が結びついていると実感した体験を振り返る。 ・良い（プラス）影響と悪い（マイナス）影響についてあげる。 ・これらの影響は，無意識のうちに引き起こされることを知る。 ・心と体は，神経などの働きを通じて密接に影響し合っていることを知る。	①			観察 ワークシート
2	・心の健康を保つ上で重要だと思うことについて，これまでの自分の生活をふり返りながら考える。 ・今の自分が「～したい」「～したくない」と思うことについてあげる。 ・欲求の分類や段階，心の発達と欲求との関係について知る。 ・欲求が満たされなかったときの気持ちや行動について思い出す。 ・欲求不満への対処方法として考えられる行動についてグループで話し合い，発表する。	②	①		観察 ワークシート
3	・ストレスについて知り，適度なストレスは精神発達上，必要なものであることを知る。また，思春期は，ストレスを感じやすいことについて知る。 ・強いストレスは，心や体の不調や病気の原因となる場合もあることについて知る。 ・ストレスへの対処方法として，どのような方法があるかについて考え，発表し合う。 ・自分に合ったストレスへの対処の仕方を選ぶことについて，ワークシートにまとめる。 【課題】次時に向けて「リラクセーションの方法」を調べてくる。 （ICTの活用。家族への聞き取り。等）	③	②		観察 ワークシート（授業後）
4	・調べてきた「リラクセーションの方法」について，グループで共有し，全体に発表する。 ・ストレスによる心身の負担を軽くするようなリラクセーションについて，意義や手順，行い方のポイントを確認しながら実践してみる。 （教科書QRコードを活用し，腹式呼吸等の呼吸法中心に実施。） ・実習を通して理解したことをワークシートにまとめる。　体つくり運動との関連	④		①	観察 ワークシート（授業後）

単元の評価規準		
	知識・技能	①精神と身体には，密接な関係があり，互いに影響を与えていること，心の状態が体に，体の状態が心にあらわれるのは，神経などの働きによるものであるということについて理解したことを言ったり，書いたりしている。 ②心の健康を保つには，適切な生活習慣を身に付けるとともに，欲求やストレスに適切に対処することが必要であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。 ③ストレスへの対処にはストレスの原因となる事柄に対処すること，コミュニケーションの方法を身に付けることなどいろいろな方法があり，それらの中からストレスの原因，自分や周囲の状況に応じた対処の仕方を選ぶことが大切であることについて，理解したことを言ったり，書いたりしている。 ④リラクセーションの方法等がストレスによる心身の負担を軽くすることについて理解したことを言ったり，書いたりしているとともに，それらの方法で対処することができる。
	思考・判断・表現	①欲求やストレスへの対処について，他者と話し合ったり，ノートなどに記述したりして，筋道を立てて伝え合っている。 ②欲求やストレスへの対処について，習得した知識や技能を自他の生活と比較したり，活用したりして，心身の健康を保持増進する方法やストレスへの適切な対処の方法を選択したりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	①欲求やストレスへの対処について，課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。

「知識・技能」の評価規準作成ポイント
・「知識」については，解説の「～理解している」と記載してある文末を「～について，理解したことを言ったり書いたりしている」として評価規準を作成する。
・「技能」については，解説の「～できるようにする」と記載してある文末を「～について，理解したことを言ったり書いたりしているとともに，（～が）できる」として評価規準を作成する。
「思考・判断・表現」の評価規準作成ポイント
・解説の例示に記載された内容を踏まえ，実際の学習活動に合わせ文末を「～している」として作成する。
「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準作成ポイント
・改善等通知における評価の観点及びその趣旨に示された内容等を踏まえ，文末を「～しようとしている」として作成する。

（2）高等学校科目保健「生活習慣病などの予防と回復(がん)」指導と評価の計画の例

時	学習内容・学習活動	評価の重点			評価方法等
		知技	思判表	態度	
1	○資料から生活習慣病などについて知る。 ○生活習慣病などのリスクを軽減し予防するための調和のとれた健康的な生活について考える。 ○定期的な健康診断の受診が生活習慣病などの予防に必要であることを知る。	①			観察 ワークシート
2	○日常的にスポーツを計画的に取り入れることが生活習慣病などの予防と回復に有効であることを知る。 ○生活習慣病などの予防と回復について，自他や社会の課題と，それを選択した理由をワークシートにまとめる。 ○まとめた内容をグループで話し合う。		①		観察 ワークシート
③	○がんについて種類や原因などを理解する。 ○がんの予防について，がん検診の目的や早期発見の重要性を理解し，がん検診について考える。	②	②		観察 ワークシート
4	○がんの回復には，患者や周囲の人々の生活の質を保つことや緩和ケアが重要であることに触れ，正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることを理解する。 ○がんの治療法について，調べ学習を行い，ワークシートにまとめる。 ○本単元のまとめをする。	③		①	観察 ワークシート

単元の評価規準		
	知・技	①生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには，適切な運動，食事，休養及び睡眠など，調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること，定期的な健康診断の受診が必要であることについて理解したことを言ったり，書いたりしている。 ②がんについて，肺がん，大腸がん，胃がんなど様々な種類があり，生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあること，がんの予防にはがん検診の普及など社会的な対策が必要であることについて理解したことを言ったり，書いたりしている。 ③生活習慣病などの予防と回復には，個人の取組とともに，健康診断やがん検診の普及，正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて理解したことを言ったり，書いたりしている。
	思・判・表	①生活習慣病などの予防と回復について，健康に関わる原則や概念を基に整理したり，個人及び社会生活と関連付けたりして，自他や社会の課題を発見し，説明している。 ②生活習慣病などの予防と回復について，習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し，リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理し，説明している。
	態度	①生活習慣病などの予防と回復について，個人の取組や社会的な対策についての学習に関心を持ち，課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」は単元全体を通して評価していくため「破線」で区切っている。

5　本時の指導（３／４時間）

（１）本時の目標

○がんについて，肺がん，大腸がん，胃がんなど様々な種類があり，生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて理解できるようにする。（知識及び技能）

◎がんの予防について，習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し，リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理し，説明することができるようにする。（思考力，判断力，表現力等）

○知識及び技能
◎思考力，判断力，表現力等
○学びに向かう力，人間性等

文末→「～できるようにする。」
評価規準に該当する項目は◎で、その他は○で記載する。
（指導と評価の計画の評価の機会と合わせる）

（２）展開

段階	学習内容と学習活動	学習形態	教師の指導・支援 （◆評価規準と方法）
導入	1　本時の学習課題について考える。 ・ワークシートで国立がん研究センター「がんを防ぐための新 12 か条」を予想し，その後，近くの生徒と確認し合う。 ・がんについての正しい知識を身に付け，がんに関する情報について関心をもち，自ら適切に判断し，行動していくことが大切であることを知る。	個人 ペア	○「がんの正しい知識」が変わる可能性や，「わかっていないこと」が今後わかる可能性があることから，がんに関する情報について関心をもち，自ら適切に判断し，行動していくことが大切であることを説明する。
展開	2　学習のねらいを知る。 【学習課題】がんの種類や原因などを正しく理解し，その予防について，個人の取組や社会的な対策について考えてみよう。		
	3　がんについて種類や原因などを理解する。 ・ワークシートでがんのリスク要因，予防要因を予想し，その後，近くの生徒と確認し合う。 ・主ながんの種類や原因について理解する。	個人 ペア 全体	**◆知識・技能-②（学習活動３）** 【観察・ワークシート】
	4　がんの予防について，　がん検診の目的や早期発見の重要性を理解し，がん検診について考える。 ・がん検診の受診について自分の考えをワークシートに記入し，その後，班で発表し合う。 ・がん検診の目的や早期発見の重要性を理解する。 ・国が推奨するがん検診について理解する。 【発問】対象となるがんや対象年齢はどのように決まっているのだろう。	個人 班 全体	**◆思考・判断・表現-②（学習活動４）** 【観察・ワークシート】 ○がんの予防について，個人の取組とともに社会的対策として，がん検診があることが理解できるようにする。

	・がんの死亡数，り患数の特徴を知り，がん検診の受診年齢について考える。 ・日本のがん検診受診率について知る。 ・がん検診を受診しない理由について考える。 【発問】がんの予防について， ①　自己の取組 ②　がん検診の普及の取組 ③　がん検診以外の社会的取組の観点から考えを整理してみよう。 ・ワークシートに記入し，班で発表後，全体共有する。	全体 個人 班 全体	○がん検診を，がんやがん検診に関する資料と関連付けて考えることで理解を深め，がんの予防について，自分で判断し行動することができるようにする。 ○がんの予防について，生活場面を想定し，実感を持って考えるよう促す。また，自ら情報を得て，適切に判断し行動していくことが重要であることが理解できるようにする。
まとめ	5　本時の学習のまとめをする。 がんの予防には，個人の取組に加えて，がん検診などの社会的な対策が大切であることを確認する。	全体	○次時はがんの回復について学習することを知らせる。

参考：公益財団法人日本学校保健会　学校保健ポータルサイト

「主体的に学習に取り組む態度」の評価の留意点

○ 「主体的に学習に取り組む態度」は単位時間における指導の重点化が図られている観点に対する取組状況によって評価するものと考えると，各単位時間で指導の重点化が図られている観点の評価との整合性に留意する必要がある。例えば「知識・技能」や「思考・判断・表現」が「十分満足できる」評価の生徒が「主体的に学習に取り組む態度」が「努力を要する」評価となることは考えにくい。

○ 単元の導入で，単元を通して身に付けたいゴールイメージを共有するとともに，生徒が自らの学習の仕方に目が向くように，課題に対する取り組み方と自己評価を毎時間ワークシートに記載させる。生徒はこれまでの学習の仕方と比較しながら毎時間の学習を振り返ることができ，より効果的な学習の進め方を模索することにつながる。また，記載内容から「努力を要する」状況の生徒に対し，ワークシートへのコメントで指導するとともに，次時の指導改善につなげる。

○ グループワークなどの発言や発表の状況を観察で評価し，「努力を要する」生徒には，個別に指導するとともに学習の改善につなげる。生徒がグループワークなどに意欲的に取り組むためには，安心して発言できる環境づくりや発言により学びが深まることを生徒が理解していることが必要であると考えられ，そのために「仲間の発言は否定しない」等の授業内でのルールづくりや，生徒の発言や発表の際に賞賛するとともに，その価値付けを行うことが重要である。グループワークによる発言や発表の機会を経験することにより，自分の考えを整理しようとしたり，他人の意見との相違点への気付きから自分の考えを深めようとしたりすることにつながり，その結果，主体的に学習に取り組む態度が育成されていく。

５　授業改善チェックシート

「生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎づくり」を実現するためには，児童生徒の能力，興味関心等に応じて，運動の楽しさや喜びを味わい，自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決していく授業づくりが必要である。

そこで，先生方が体育の授業を進める上で参考となる，「単元編」，「展開編」，「総括表」の３種類の「授業改善チェックシート」を作成した。授業づくりや授業実践後の振り返りに活用したり，単元全体を教師自身が反省し，次の授業に生かすために活用したりすることで，授業改善に繋がると考えた。

（１）運動の楽しさや喜びを味わう授業づくり「単元編」について

単元計画は，年間計画に配列された一つ一つの単元を，授業を通してどのように展開していくか見通しを立てたものであり，教師が授業づくりを行う際，必ず行わなければならない作業である。この授業改善チェックシート「単元編」に沿って，授業準備（教材研究）を行うことで，単元指導計画ができあがることになる。新しい単元に入る際に，一つ一つをチェックし，授業づくりに生かし，単元の見通しをもてるよう努力する必要がある。

（２）運動の楽しさや喜びを味わう授業づくり「展開編」について

単元計画に沿って実際に授業展開の前・中・後に，チェックするのが「展開編」である。指導と評価の一体化のところでも述べているように，「指導と評価は別物ではなく，評価の結果によって指導を改善し，さらに新しい指導の成果を再度評価するという，指導に生かす評価を充実させることが重要である。」の考え方のもと，本時の指導目標・内容を明らかにし，その指導目標・内容にあった授業展開を行い，指導した内容を評価するといった，しっかりとした柱を立てて授業が展開される必要がある。また，安全面や体力向上，態度等についても忘れてはならないチェック項目である。

（３）授業の自己評価チェックシート「総括表」について

総括表は，「単元編」，「展開編」のチェックをまとめたものである。特に，展開編のチェックの積み重ねにより，教師自身の力量の高い部分や，弱点などが浮き彫りになってくる。この反省を次の授業づくりや授業展開に生かすことが重要であり，児童生徒が「運動の楽しさや喜びを味わえる」授業づくりのための貴重な資料となる。

チェック項目については，授業づくりや授業展開に必要な内容が盛り込まれている。経験の浅い教員や若い教員はもちろん，中・高等学校の保健体育科の教員にも，基本に返って活用するなど，以下の点に留意した活用が考えられる。

・年度初めのいくつかの単元で活用し，授業づくりの確認を行う。
・チェックシートを利用し，学校や個人の指導に応じた内容に修正・変更を加えて活用する。
・授業研究等，指導案を作成するときに活用する。
・チェックシートを週案や週指導記録簿などに添付し，活用しやすいようにする。
・互いの授業観察等で利用する。

【授業改善チェックシート】

授業の自己評価チェックシート総括表

○単元の配当時間 ＿＿＿＿時間
○前年度又は次年度の配当時間（前年度・次年度＿＿＿＿時間）

子どもたちに「運動の楽しさや喜びを味わわせる」授業づくりのために，自己評価を行い，次の授業に生かしましょう。

	項目	評価	備考
単元編	①特性を明らかにしたか。		
	②実態を把握しているか。		
	③児童生徒に身に付けさせたい力や教師の願い等，指導観をもっているか。		
	④学習のねらいを明らかにしたか。		
	⑤評価規準を明らかにしたか。		
	⑥学習過程（学習の道すじ）を明らかにしたか。		
	⑦指導，評価計画を作成したか。		
	⑧学習の場を工夫したか。		
	⑨学習カードを準備したか。		
	⑩単元全体を通して安全面の配慮をしているか。		
	計		

	項目 ＼ 時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	
展開編	1　本時の指導目標・内容を明らかにすることができたか。												
	2　施設・用具の安全確認を行うことができたか。												
	3　規律正しく行動させることができたか。												
	4　健康観察と状況に応じた指示ができたか。（休息，見学，事故対応）												
	5　指導目標・内容にあった展開ができたか。												
	6　体力向上の手立てと運動量は十分に確保できたか。												
	7　課題解決に向け，協力して活動させることができたか。												
	8　個への適切な支援ができたか。												
	9　指導目標を達成することができたか。												
	10運動の楽しさや喜びを味わわせることができたか。												
	計												

授業の自己評価チェックシート総括表

〇単元の配当時間　　6　　時間
〇前年度又は次年度の配当時間（前年度・次年度　　8　　時間）

子どもたちに「運動の楽しさや喜びを味わわせる」授業づくりのために，自己評価を行い，次の授業に生かしましょう。

	項目	評価	備考
単元編	①特性を明らかにしたか。	3	
	②実態を把握しているか。	3	
	③児童生徒に身に付けさせたい力や教師の願い等，指導観をもっているか。	3	
	④学習のねらいを明らかにしたか。	2	
	⑤評価規準を明らかにしたか。	1	
	⑥学習過程（学習の道すじ）を明らかにしたか。	2	
	⑦指導，評価計画を作成したか。	2	
	⑧学習の場を工夫したか。	3	
	⑨学習カードを準備したか。	2	※授業改善のために次に生かせること等を記入
	⑩単元全体を通して安全面の配慮をしているか。	3	
	計	24	

〇単元計画づくりを振り返り，何を改善していけば「運動の楽しさや喜びを味わわせる」授業づくりができるのかを明確にしていきまょう。
〇この場合は，評価規準を明確にすることが必要。
〇すべてをすぐにパーフェクトは難しいので，一つ一つを改善できるよう，教師同士が情報交換をして授業づくりに生かしましょう。

毎時間を振り返ると自分の苦手な面が明確になります。

	項目 ＼ 時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
展開編	1　本時の指導目標・内容を明らかにすることができたか。	3	2	3	3	2	3					16
	2　施設・用具の安全確認を行うことができたか。	2	2	2	2	2	3					13
	3　規律正しく行動させることができたか。	2	2	2	2	2	3					13
	4　健康観察と状況に応じた指示ができたか。（休息，見学，事故対応）	2	1	2	2	2	2					11
	5　指導目標・内容にあった展開ができたか。	2	2	2	3	3	3					15
	6　体力向上の手立てと運動量は十分に確保できたか。	2	1	3	3	3	2					14
	7　課題解決に向け，協力して活動させることができたか。	3	2	3	3	2	3					16
	8　個への適切な支援ができたか。	2	2	2	2	1	3					12
	9　指導目標を達成することができたか。	2	2	3	3	2	3					15
	10運動の楽しさや喜びを味わわせることができたか。	2	2	2	2	2	3					13
	計	22	18	24	25	21	28					138

指導目標が明確である素晴らしい

健康観察を今後しっかり行う必要有り

協力の大切さを指導できることは◎

個に応じた支援・指導ができるよう努力が必要

運動の特性により触れさせたい

＜Ａシート＞指導計画の手引用チェックシート　　月　　日（　　）

運動の楽しさや喜びを味わわせる授業づくり＜単元編＞

年　　組　　単元計画を作成する際，チェックしましょう

単元名

〇単元の配当時間＿＿＿＿時間
〇前年度又は次年度の配当時間
　前年度・次年度＿＿＿＿時間

運動の特性

知る・つかむ

1　運動の特性を明らかにする

2　実態を明らかにする

＜指導観＞
☆教師の願い
★児童生徒に身に付けさせたい力

学習のねらい
（単元のねらい）

練る

3　学習のねらいを明確にする

学習指導要領の内容

小・中・高（入学年次とその次の年次）
①知識及び技能
②思考力，判断力，表現力等

高（上記以外）
①技能
②態度

学習過程
（学習の道すじ）

動く

4　学習過程を工夫する

学習指導の展開
学習活動と
指導（支援）活動

5　学習指導を工夫する

6　学習資料を準備する

＜自己評価＞　3・2・1点で記入
大変よくできた・・・・・・3　　おおむねできた・・2
あまりできなかった・・1

①運動の特性を明らかにしたか　□

②実態を把握しているか　□
・児童生徒の関心，意欲の状況
・児童生徒の学習経験の状況
・児童生徒の体力，運動技能の状況

③児童生徒に身に付けさせたい力や教師の願い等指導観をもっているか　□

④学習指導要領の内容のねらいを明らかにしたか　□

⑤評価規準を明らかにしたか　□

⑥学習過程（学習の道筋）を明らかにしたか　□
・ねらい①今できる技で…
・ねらい②高まった力で…
※詳細は学校体育要覧参照

⑦指導・評価計画を作成したか　□

⑧学習の場を工夫したか　□
・施設，用具の数等の確認

⑨次の内容がわかる学習カードを準備したか　□
・学習のねらいがわかる
・学習の道すじがわかる
・学習の手がかりとなる資料がある

⑩単元全体を通して安全面の配慮をしているか　□

＜Ａシート＞指導計画の手引用チェックシート　　月　　日（　　）

運動の楽しさや喜びを味わわせる授業づくり＜単元編＞

単元の配当時間

年　　組　　単元計画を作成する際，チェックしましょう

単元名を記入

単元名

○単元の配当時間＿＿＿＿時間
○前年度又は次年度の配当時間
前年度・次年度＿＿＿＿時間

前年度又は次年度に○を記入

前年度又は次年度の配当時間

1　運動の特性を明らかにする　　たか　3

2　実態を明らかにする

＜指導観＞
☆教師の願い
★児童生徒に身に付けさせたい力

知る・つかむ

②実態を把握しているか　2
・児童生徒の関心，意欲の状況
・児童生徒の学習経験の状況
・児童生徒の体力，運動技能の状況

③児童生徒に身に付けさせたい力や教師の願い等指導観をもっているか　2

3　学習のねらいを明確にする

学習指導要領の内容

小・中・高（入学年次とその次の年次）
①知識及び技能
②思考力，判断力，表現力等

高（上記以外）
①技能
②態度

学習のねらい
（単元のねらい）

④学習指導要領の内容のねらいを明らかにしたか　3

⑤評価規準を明らかにしたか　3

練る

学習過程
（学習の道すじ）

4　学習過程を工夫する

⑥学習過程（学習の道筋）を明らかにしたか　2
・ねらい①今できる技で…
・ねらい②高まった力で…
※詳細は学校体育要覧参照

⑦指導・評価計画を作成したか　2

動く

学習指導の展開
学習活動と
指導（支援）活動

5　学習指導を工夫する

⑧学習の場を工夫したか　3
・施設，用具の数等の確認

6　学習資料を準備する

⑨次の内容がわかる学習カードを準備したか　2
・学習のねらいがわかる
・学習の道すじがわかる
・学習の手がかりとなる資料がある

⑩単元全体を通して安全面の配慮をしているか　2

＜自己評価＞　3･2･1点で記入
大変よくできた　　･･･3
おおむねできた　　･･･2

＜Ｂシート＞授業の自己評価用チェックシート　　月　　日（　）

運動の楽しさや喜びを味わわせる授業づくり＜展開編＞

年　　組

1 □ 本時の指導目標・内容を明らかにすることができたか。
＜児童生徒に身に付けさせたいもの＞

2 □ 施設・用具の安全確認を行うことができたか。
・見る　・触る　・ゆらす　・たたく
・使用して確認　・必要数等

3 □ 規律正しく行動させることができたか。
・学習の約束事　・時間　・服装

4 □ 健康観察と状況に応じた指示ができたか。（休息，見学，事故対応）
・授業前　・授業中　・授業後

5 □ 指導目標・内容にあった展開ができたか。

6 □ 体力向上の手立てと運動量は十分に確保できたか。

7 □ 課題解決に向け，協力して活動させることができたか。
・教え合い　・認め合い　・競い合い
・支え合い（補助）・称え合い

8 □ 個への適切な支援ができたか。
・丁寧な説明　・示範　・助言　・補助
・励まし　・称賛　・次時への意欲付け

9 □ 指導目標を達成することができたか。

10 □ 運動の楽しさや喜びを味わわせることができたか。

＜自己評価＞　3・2・1点で記入
大変よくできた・・・・・・3
おおむねできた・・・・・2
あまりできなかった　・・1

＜10項目の合計＞
30　パーフェクト
24～29　合格
18～23　あと一歩
0～17　努力を要す

やる気アップ体育で快汗！元気アップ体力づくり！＜教育庁教育振興部保健体育課＞

＜Ｂシート＞授業の自己評価用チェックシート　　月　　日（　）

運動の楽しさや喜びを味わわせる授業づくり＜展開編＞

年　　組

1 [3] 本時の指導目標・内容を明らかにすることができたか。
＜児童生徒に身に付けさせたいもの＞

その時間に何を学ばせるか

2 [2] 施設・用具の安全確認を行うことができたか。
・見る　・触る　・ゆらす　・たたく
・使用して確認　・必要数等

3 [2] 規律正しく行動させることができたか。
・学習の約束事　・時間　・服装

素早い行動・集合・解散・開始時間・運動に適した服装等

顔色・目の輝き・姿勢・返事・笑顔・表情・活動状況・服装等

4 [2] 健康観察と状況に応じた指示ができたか。（休息，見学，事故対応）
・授業前　・授業中　・授業後

学ばせたい内容とのずれは無いか・指導目標に向かっての工夫等

5 [2] 指導目標・内容にあった展開ができたか。

脈拍・発汗・練習回数・運動時間・全力を出し切る姿等

6 [2] 体力向上の手立てと運動量は十分に確保できたか。

互いの会話・笑顔・うなずき・拍手・学習カード等

7 [3] 課題解決に向け，協力して活動させることができたか。
・教え合い　・認め合い　・競い合い
・支え合い（補助）・称え合い

8 [2] 個への適切な支援ができたか。
・丁寧な説明　・示範　・助言　・補助
・励まし　・称賛　・次時への意欲付け

声かけ・個に応じた支援指導・学習カードへの記載等

9 [2] 指導目標を達成することができたか。

学ばせたい内容にどこまで迫ったか（練習やゲームの状況・学習カード等）

10 [3] 運動の楽しさや喜びを味わわせることができたか。

運動の特性に触れる授業展開ができたか（表情・笑顔・満足感・発汗・学習カードの内容・記録等授業全体の状況）

＜自己評価＞　3･2･1点で記入
大変よくできた・・・・・・3
おおむねできた・・・・・2
あまりできなかった　・・1

＜10項目の合計＞
30　パーフェクト
24～29　合格
18～23　あと一歩
0～17　努力を要す